










会 告

平成 16 年度農業土木学会賞	63
平成 17 年度農業土木学会賞候補の推薦について	64
平成 16 年度学術基金による援助の決定について	65
平成 16 年度日本農学賞候補の推挙について	65
研究部会長の交代について.....	65
平成 16 年度農業土木学会大会講演会の開催について (第 3 報) 	66
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について	68
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め	68
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します。	69
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 17 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集	69
支部講演会の投稿票について.....	70
第 61 回京都支部研究発表会の開催について (第 1 報) 	74
第 59 回中国四国支部講演会の開催について (第 1 報) 	74
第 33 回中国四国支部研修会・第 28 回地方講習会の開催について (第 1 報) 	74
平成 16 年度農村計画研究部会研修会 (第 26 回現地研修集会) の開催について 	75
平成 16 年度農業土木学会資源循環研究部会研究発表会の開催と発表申込みのご案内 	76
「材料施工研究部会報 42 号」, 「性能設計に関する勉強会報告会及び研究発表会講演集」の販売について	77
第 19 回 ICID 総会における “Special Session” “Symposium” “Seminar” および “Congress Questions” への発表論文の募集.....	78
農業土木学会論文集第 231 号内容紹介	80
学会記事	82

農業土木学会 (本部) 行事の平成 16 年度計画

農業土木学会 (本部) 16 年度行事について, 下表のように計画しています。奮ってご参加下さるようお願いいたします。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム, または認定申請中 () を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 16 年 9 月 7~10 日	平成 16 年度大会 運営委員会	平成 16 年度大会講演会 		札幌市	72 巻 136 号

農業土木学会関連行事予定

平成 16 年	農地保全研究部会	第 25 回農地保全研究集会			佐賀県	
平成 16 年 8 月 26~27 日	農村計画研究部会	第 26 回現地研修集会		みんなで描く山里ものがたり (仮)	岐阜県 高山市	72巻6号
平成 16 年 9 月 8 日 (予定)	材料施工研究部会	企画セッション		基盤系科目では何を教えねば ならないか	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月 16~17 日	関東支部	第 55 回関東支部講演会			静岡県 浜松市	72巻5号
平成 16 年 9 月	水文・水環境研究部会	企画セッション		地球規模水循環変動から見た 水と食料	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	農村道路研究部会	企画セッション		寒冷地における農道整備の現 状について	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	応用水理研究部会	企画セッション		農業土木分野における応用水 理学研究の課題	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	農村計画研究部会	企画セッション		畜産酪農資源をめぐる循環型 農村地域形成の展望	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	農村生態工学研究部会	企画セッション		農村生態工学が果たす役割	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	資源循環研究部会	企画セッション		農業土木における資源循環 への貢献 バイオマス資源の エネルギー変換	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	農業水利研究部会	研修会				
平成 16 年 10 月	農村生態工学研究部会	地方研究会			兵庫県	
平成 16 年 10 月 13 日	中国四国支部	第 59 回研究発表会			岡山市	72巻6号
平成 16 年 10 月 14~15 日	水文・水環境研究部会	第 17 回シンポジウム		農林地および広域の水文・水 環境	茨城大学 農学部	72巻5号
平成 16 年 10 月 26 日	中国四国支部	第 33 回支部研修会			高知市	72巻6号
平成 16 年 10 月 27 日	中国四国支部	第 28 回地方講習会			高知市	72巻6号
平成 16 年 10 月 28,29 日	九州支部	第 85 回支部講演会			熊本市	
平成 16 年 10~11 月	農村道路研究部会	平成 16 年度研究発表会及び 現地見学会				
平成 16 年 11 月 18,19 日	京都支部	第 61 回研究発表会			大津市	72巻6号
平成 16 年 11 月	土壌物理研究部会	第 43 回研究集会				
平成 16 年 11 月	農村生態工学研究部会	平成 16 年度研究部会発表会			幕張メッセ	
平成 16 年 11 月 24~26 日	資源循環研究部会	平成 16 年度 (第 2 回) 研究発表会		農村における水やバイオマス 等有機資源の利活用および循 環に係る調査・研究	幕張メッセ	72巻6号
平成 16 年 12 月 中旬	材料施工研究部会	第 42 回シンポジウム		水利施設のストックマネージ メント	茨城県 つくば市	72巻9号 (予定)
平成 16 年 12 月	応用水理研究部会	平成 16 年度応用水理研究部会講演会		応用水理学分野の研究発表	福岡市	72巻10号 (予定)
平成 17 年 1 月	農村生態工学研究部会	地方研究会			栃木県	
平成 17 年 1 月	関東支部	地方講習会および支部研修会			神奈川県	
平成 17 年 3 月	水土文化研究部会	第 2 回水土文化研究部会		水土文化の持つ機能と共有認 識に向けて	農業工学 研究所	

平成 16 年度農業土木学会賞の決定について

平成 16 年度の農業土木学会賞は、平成 16 年 4 月 26 日（月）の第 187 回理事会において、下記のとおり決定いたしました。授賞式は、来る 9 月 7 日（火）、北海学園大学豊平キャンパス第 60 番教室で開催される平成 16 年度大会講演会第一日目に行われます。

学術賞	農村の土地利用・土地整備に関する一連の研究	佐藤 洋平	東京農業大学国際食料情報学部生物企業情報学 科教授 前・東京大学大学院農学生命科学研究科教授 茨城大学農学部教授
学術賞	農村地域の水質環境把握とその改善に関する一連の研究	中曽根 英雄	茨城大学農学部教授
学術賞	点滴灌漑の用水計画と乾燥地の砂漠化対処に関する一連の研究	山本 太平	鳥取大学乾燥地研究センター教授
研究奨励賞	農業用ダム・ため池の有する洪水低減機能に関する一連の研究	中西 憲雄（独）	農業工学研究所造構部広域防災研究室長
研究奨励賞	直播稲作の大区画水田への導入に関する一連の研究	牧山 正男	茨城大学農学部助手
研究奨励賞	東北タイ・天水田稲作の水文環境に関する研究	鈴木 研二	日本学術振興会科学技術特別研究員
技術奨励賞	GIS を活用した土地改良区施設管理システム	武田 富美夫	宮崎県一ツ瀬川土地改良区技術次長
論文奨励賞	農業用作業機を使用した整地工と暗渠施工	佐藤 正一	スガノ農機（株）
論文奨励賞	農業水利施設に関連する農村伝承文化の実相と機能	山下 裕作（独）	農業工学研究所農村計画部
論文奨励賞	農業水利施設機能診断のための非破壊調査現地適用事例	森 充広（独）	農業工学研究所造構部研究員
論文奨励賞	ニジェール南西部における斜面ミレット農地の生育環境と等高線畦畔の保全効果	長野 宇規	総合地球環境研究所
論文奨励賞	窒素負荷削減対策への土地利用別水質タンクモデルの適用	加藤 亮	茨城大学農学部助手
技術報告賞	兵庫県農集排水施設群の統合管理と情報化の取り組み	見手倉 幸雄	兵庫県土地改良事業団連合会事務局次長
		周 東正信	技術部次長
		法田 公良	技術部集落排水第 2 課長
		栗林 茂樹	総務部企画調整課長
著作賞	資源よ、よみがえれ ゴミを活かすリサイクル農業実践記	酒井 信一	農業土木学会名誉会員
著作賞	北の食と土地改良	森 久美子	エッセイスト・作家
環境賞	マキノの自然環境保全活動の取り組み	内田 日出史	マキノの夢の森づくり委員会代表
メディア賞	小学校の総合学習「グループ学習」を活用した農業水利施設施設の役割と事故防止の広報活動		全国土地改良事業団体連合会
功労賞	設計基準の取りまとめ及び大規模水路改修の設計技術開発への貢献	坂上 成永	
功労賞	インドネシアにおける住民参加型農業農村開発事業「村づくり協力」への貢献	萱野 信義	東豊開発コンサルタント技術顧問
功労賞	地域に根ざした技術研究と長年の技術教育者としての貢献	荻田 昭三（株）	エイトコンサルタント本社事業本部顧問
功労賞	「晴れの国岡山」の農業農村整備の推進と農業土木技術者育成への貢献	藤井 保治	岡山県土地改良事業団体連合会副会長
功労賞	農業用水の水質等に関する先導的な試験研究による農業農村整備事業への貢献	増島 博	東京農業大学応用生物科学部生物応用化学科 客員教授
功労賞	学際的な議論の推進による農業水利に関わる実務と学術の融合への貢献	西村 長平	愛知川沿岸土地改良区副理事長
上野賞	農業農村における地域連携活動 地域に密着した喜界農業水利事業		九州農政局喜界農業水利事業所 喜界農業水利事業連絡会議
上野賞	住民参加による農業水利の環境整備及び環境教育への取り組み 矢作川中下流域地区における農業水利施設の整備		東海農政局新矢作川農業水利事業所 愛知県農林水産部 明治用水土地改良区 矢作川沿岸土地改良区連合
上野賞	広域排水計画による農業振興と多面的機能の発揮 排水事業の総仕上げとしての西蒲原排水事業の実施		北陸農政局西蒲原農業水利事務所 新潟県農地部 西蒲原土地改良区

平成17年度農業土木学会賞候補の推薦について

平成17年度の農業土木学会賞（上野賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。
締切りは、平成16年10月末日となっております。推薦書様式は学会HPをご参照下さい。

平成17年度農業土木学会賞募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞		著作賞	環境賞	メディア賞	功労賞
		研究奨励賞	技術奨励賞	論文奨励賞	技術報告賞				
賞の趣旨	農業土木に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業土木に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業土木に関する学術または技術についての優秀な業績		一般に市販されている図書の中で、農業土木に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる著者	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画、施工の事例および管理・保全活動	農業土木を紹介した優れたパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業土木の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成11年10月から平成16年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成13年10月から平成16年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成13年10月から平成16年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成15年10月から平成16年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。	平成14年10月から平成16年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成6年10月から平成16年9月までに出版されている図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の図書は対象としない。また、改訂版にあつては全面改訂したもののみを対象とする。	平成14年10月から平成16年9月までに、本学会発行の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成14年10月から平成16年9月までに、発表された作品を対象とする。	平成16年度末に65歳以上に達している個人
受賞候補者	本学会の会員			本学会の会員または会員の属する組織・団体		会員の資格の有無を問わない		本学会の正会員	
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書（様式参照）により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（何れも返却しない）。			学会誌・論文集・英文誌の編集委員会の推薦、または正会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書（様式参照）により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（何れも返却しない）。		正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書（様式参照）により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（何れも返却しない）。		正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書（様式参照）により会長宛推薦する。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う								
賞の決定	理事会において行う								
表彰	農業土木学会大会講演会において会長が授与する								
推薦締切	平成16年10月末日								
提出先	〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4 社団法人農業土木学会 学会賞選考委員会宛								

平成 16 年度学術基金による援助の決定について

学術基金運営委員会

学術基金運営委員会（4月9（金））において、平成 16 年度の援助について審査の結果、次の会員に対して援助することといたしました。

記	（鳥取大学乾燥地研究センター大学院博士課程）
学際的分野の調査研究および若手研究者の研究援助	「2004 アメリカ農業工学会・カナダ農業工学会合同年次大会」
山下祐司（筑波大学大学院環境科学研究科博士課程）	カナダ国 オタワ市 2004 年 8 月 1 日～8 月 4 日
「地層中における懸濁物質の輸送」	藤原 洋一（神戸大学大学院自然科学研究科）
国際学術会議等への出席援助	「第 2 回アジア太平洋水文水資源協会会議」
Hossein Dehghanisanji	シンガポール国 2004 年 7 月 5 日～7 月 8 日

平成 17 年日本農学賞候補の推挙について

平成 17 年度日本農学賞の候補を下記によりご推挙いただきたいと存じます。適当と認められる候補がありましたら下記規程により、平成 16 年 9 月 15 日までにご推薦下さいますよう、お願い申し上げます。

記

日本農学賞候補推挙取扱規程（昭和 30 年 10 月 21 日制定
昭和 34 年 11 月 4 日改正
昭和 39 年 12 月 8 日改正
昭和 44 年 5 月 26 日改正
昭和 58 年 4 月 25 日改正）

- 第 1 条 この規程により、本会会員で次の条に該当する業績をあげたものに対し、日本農学賞候補に推挙する取扱いを行う。
- 第 2 条 推挙する業績は、発表された論文または著書とし、本学会を代表する業績として、十分その価値が評価されるものとする。
- 第 3 条 推薦者（正会員）は、毎年 9 月 15 日までに、次の事項を記し、会長に推薦する。
- ただし、必要ある場合は推薦者に関係資料の提出を求めることができる。
- （イ） 候補業績（論文、著書名）
 - （ロ） 候補者氏名（ふりがな）
 - （ハ） 候補者所属、職名、学位
 - （ニ） 候補者連絡先
- 第 4 条 推挙の決定は、理事会が行う。

研究部会長の交代について

平成 16 年 4 月 1 日付で下記の研究部会長の交代が行われました。

土壌物理研究部会	（新）宮崎 毅（東京大学大学院教授）	（前）筑紫 二郎
農地保全研究部会	（新）大坪 政美（九州大学大学院教授）	（前）加藤 誠
応用水理研究部会	（新）加藤 治（佐賀大学農学部教授）	（前）三輪 式
農村道路研究部会	（新）加藤 誠（東京農工大学農学部教授）	（前）牧 恒雄

平成 16 年度農業土木学会大会講演会の開催について (第 3 報)
平成 16 年度農業土木学会大会運営委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 16 年度農業土木学会大会講演会は、平成 16 年 9 月 7 日(火)、8 日(水)、9 日(木)の 3 日間、札幌市豊平区の北海学園大学豊平キャンパスで開催されます。また、10 日(金)には現地研修会が行われます。

本報では講演発表の方法など、いくつかの連絡事項についてお知らせします。

なお、割引のある大会参加申込は、**7 月 15 日が締切**となっています。まだお申込みでない方は、学会ホームページからお申込みください。参加申込の詳細は、本誌 2004 年 3 月号(72 巻 3 号)会告をご覧ください。

1. **印刷製本版講演要旨集は受注生産制です** 7 月 15 日までにお申込みください。締切後の申込ならびに大会当日の購入はできません。
2. **CD-ROM 版講演要旨集は事前にお届けします** 7 月 15 日までに申込みいただき 8 月 15 日までに入金された方には全員、CD-ROM 版講演要旨集を 8 月 25 日頃にお届けします。
3. **大会概要集を発行します** 大会プログラム、学会賞受賞者プロフィール、発表者索引、全発表の 200 字概要、全体シンポジウムの要旨、現地研修会資料、企業団体広告等を一冊にまとめた大会概要集を発行します。大会当日、受付にて全員にお渡しします。
4. **参加費の後払いに応じます** ご希望の方は「後払い希望」としてお申込みください。後日、請求書をお届けします。ただし、この場合の参加費は正規の料金(通常 ¥13,000 特別 ¥7,000)となります。
5. **講演会場までの交通** 講演会場の北海学園大学は、地下鉄東豊線学園前駅に直結しています。新千歳空港からは次の二つの方法があります。
 - a) 札幌都心行き空港連絡バス(北海道中央バスと北都交通バスの交互運行、日中 10 分間隔で運転) 地下鉄福住(ふくずみ)駅で下車、地下鉄東豊(とうほう)線乗換え 栄町行き 学園前駅下車・大学に直結。
(所要約 1 時間、連絡バス 820 円 + 地下鉄 240 円 = 計 1,060 円)
 - b) JR 新千歳空港駅 札幌方面行き快速エアポート(日中 15 分間隔で運転) JR 札幌駅下車、乗換え 地下鉄東豊線さっぽろ駅 福住行き 学園前駅下車・大学に直結。
(所要約 1 時間、JR 1,040 円 + 地下鉄 200 円 = 計 1,240 円)
6. **大会会場とその周辺には駐車場がありません** 北海学園大学の構内および周辺には駐車場が全くありません。レンタカー、自家用車でのご来場は固くお断りいたします。
7. **交流会場までの交通** 大会初日夕方の交流会は、札幌グランドホテルで開催されます。講演会場の北海学園大学からは、地下鉄で各自移動していただきます。送迎バスはございません。地下鉄東豊線学園前駅より 2 つ目の大通駅で下車、徒歩約 10 分です。大通駅からホテルへの途中には札幌のシンボル・時計台があります(開館は 17 時まで)。
8. **講演発表の手順** 発表者は各会場にある発表者受付で、セッション開始時までに出席確認を済ませてください。各会場内前方に「次の講演者」席を設けてありますので、ここで順次待機してください。特に発表にパソコンをお使いの方は、この席であらかじめパソコンをケーブルに接続し(プロジェクトにはパソコン用映像入力端子が 2 つ備わっています)、発表用ファイルを立ち上げたうえで発表をお待ちください。パソコンは各自でご準備ください。スムーズなセッション進行にご協力ください。
9. **プロジェクトと OHP について** 今大会では日本アビオニクス販売(株)のご協力により、全会場に書画カメラ一体型マルチプロジェクト(MP-700, MP-50)を用意しています。パソコン画面の投射に加え、書画カメラでは OHP シートのほか普通紙もそのまま投影できます。機器の詳細については同社のホームページ(http://www.avio.co.jp/products/mp/mp_index.htm)をご覧ください。パソコン利用者だけでなく、OHP を使われる方も、休憩時間等にあらかじめ機器の扱い方を必ずご確認ください。発表準備室ならびに同社の展示ブースにもプロジェクトを用意しています。
10. **要旨集は休憩室でごらんいただけます** 閲覧用の講演要旨集を休憩室に備えますので、ご利用ください。
11. **校内は禁煙です** 喫煙は指定されたスペースでお願いします。
12. **連絡掲示板(ホワイトボード)を設置します** 連絡用の掲示板を受付付近に設置します。参加者相互の呼び出し、集会の呼びかけ等にご自由に利用ください。事務局からの各種連絡、忘れ物等もこちらに掲示します。
13. **大会会場における電話呼び出しはいたしません** 大会会場である北海学園大学では電話呼び出しができません。大学事務部へのお電話はご遠慮ください。

14. **企業団体展示ブースを設けます** 講演会場内に企業・団体の展示ブースを設けます。各種情報収集にご活用ください。
15. **学会の出版物を展示します** 会期中、講演会場内に学会出版物の展示ブースを設けます。会期中は特別価格で受け付けます。後払いも可能です。学会出版物を手にとってご覧いただき、ご利用ください。
16. **荷物の一時預かり** 会期中、講演会場に荷物の一時預かり所を設けますので、ご利用ください。
17. **会期中の昼食は食堂で** 会期中は大学内の食堂(2カ所)が営業しますので、ご利用ください。また、売店では弁当、おにぎり等も販売しています。なお、弁当の予約販売はいたしません。
18. **会議室のご要望について** 大会会期中、研究部会の幹事会や各種打合せのために会議室を必要とされる方は、7月31日までに sapporo-taikai@agr.hokudai.ac.jp へ申し出てください。大会会場内の部屋利用について調整いたします。
19. **現地研修会の出発集合場所・時間ならびにコース** 9月10日(金)の現地研修会は、ニセココース・札幌近郊コースとも、道庁赤れんが庁舎前(北3条西5丁目)から出発します。8時50分までにお集まりください。
 A: **ニセココース** 8:50 道庁赤れんが庁舎前(北3条西5丁目)集合, 9:00 出発 国営造成土地改良施設整備事業「双葉地区」(京極町・倶知安町) 道管地域用水環境整備事業「有島地区」(ニセコ町) 小樽市経由 18:30 頃札幌帰着
 B: **札幌近郊コース** 8:50 道庁赤れんが庁舎前(北3条西5丁目)集合, 9:00 出発 国営農地再編整備事業「中樹林地区」(南幌町) 道管一般農道整備事業「栗由地区」(栗山町・由仁町) 16:30 頃新千歳空港 18:00 頃札幌帰着
20. **旅行手配について** 本年度の大会運営委員会は、旅行の斡旋(宿泊、航空券等の手配)は行いません。なお、本大会の参加申込受付業務を受託している名鉄観光札幌支店が、航空券・レンタカー・ホテル等の手配をお手伝いしています。ホームページのリンクをご覧ください。会期の9月上旬は、まだ北海道観光のハイシーズンです。また、他学会の大会(日本機械学会ほか)とも会期が一部重なっております。航空便、ホテルなど混み合うことが予想されますので、お早めに手配されることをお勧めします。
21. **お問合わせ先**

大会全般に関するお問合わせ:

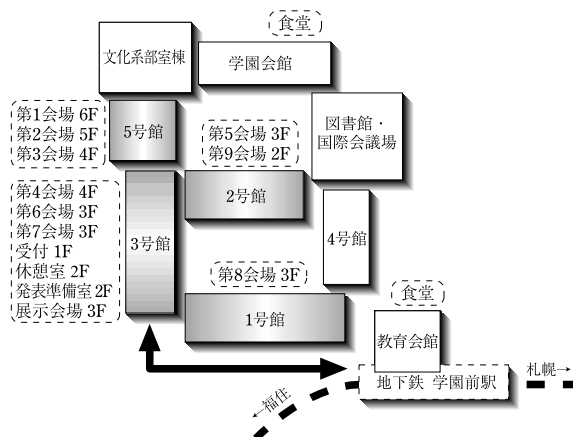
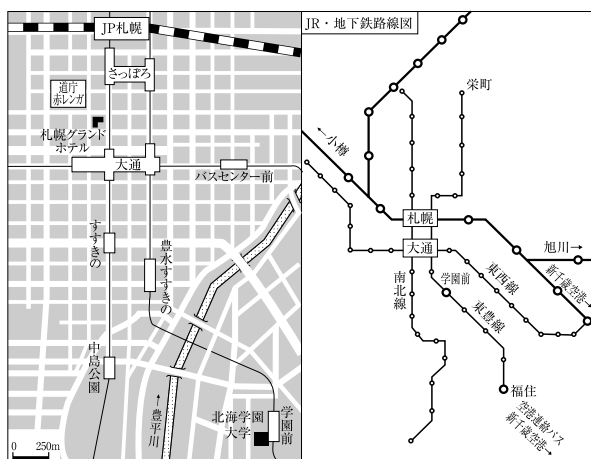
平成16年度農業土木学会大会運営委員会

〒060 8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学農学部農業工学科内

E-mail:sapporo-taikai@agr.hokudai.ac.jp ☎:080 5590 6366 FAX:011 706 4177

参加申込に関するお問合わせ:名鉄観光札幌支店 担当:吉川剛志,鈴木純一,堀川真吾

E-mail:jsidre@mwt.co.jp ☎:011 241 4986 FAX:011 241 0154



国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2004年3月にはVol.2 No.1が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたはFAXでお申込みいただけます。

農業土木学会は, 300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが, 現在会員数は252名(5月現在)であり, いまだ目標会員数には達していません。そのため, 編集業務を含め年間数百万円の赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき, 多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2004年3月にはVol.2 No.1が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等である。

編集体制:

- Editor in Chief: Dr. Yohei Sato (Japan)
- Editors および Editing Board には世界各国から新界の権威が就任しています。
- Managing Editors: Dr. Yoshisuke NAKANO (Japan), Dr. Nobumasa HATCHO (Japan), Dr. Yoshito YUYAMA (Japan), Dr. Ke Sheng CHENG (Taiwan), Dr. Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社: Springer Verlag 社(ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿先: 農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します。

農業土木学会誌編集委員会

73巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

学会誌第73巻1号～5号までの小特集のテーマ（予定）

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切（必着） （A4判用紙,1,500字以内）	原稿締切 （刷上り4ページ）
73巻 1号 水土文化遺産（仮）	平成16年6月30日	平成16年8月10日
2号 ブロック編集担当号の予定です。		
3号 貧困削減・平和構築と海外農業農村開発，食糧自給率（仮）	平成16年8月31日	平成16年10月12日
4号 流域の水環境管理（減水深を含む）（仮）	〃 9月30日	〃 11月10日
5号 技術者資格（仮）	〃 10月25日	〃 12月10日

73巻1号テーマ：「水土文化遺産（仮）」

平成13年12月、農業土木学会ビジョン検討委員会は『新たな<水土の知>の定礎に向けて』を策定しました。そこには、水と土が生物圏の循環に深く関与し、生存基盤の最も基礎にあること、とりわけ我が国では水と土は自然そのものではなく、循環の仕組みを増進しつつ恵みが受け入れやすいように人工物が組み込まれて基盤として形成されていること、また、これを維持・運営するため、社会集団や制度、儀礼、年中行事、慣行などを伴っていることなどが示されています。さらに、<水土の知>は、水と土を中心に据え、人を介して水土に及び複合系が有する全体性を反映し、対象が広範囲にわたること、基盤は長期にわたって機能し続けることから、過去を踏まえ将来を見据えて長時間にわたる視野を持つこと、地域の課題に応じて水や土、作物など個別の関連分野の知を総合化し、水土を形成、維持していく手法であること、知を体得し、水土に働きかけてその仕組みを助長する水土の知の集団を形成してきたことを特徴とし、私たちがその系譜の上に位置していることにも触れられています。

連綿として受け継がれる中でときに時代に応じて変化してきた水、土、そしてこれらに係る知に基づき、将来にわたりその健全な姿を維持・保全、さらには発展させていくことが私たちの責務ともいえます。『温故知新』という諺にもあるように、その歴史の変遷に学び、また反省するところはきわめて大きいのではないのでしょうか。

本特集では、水土にまつわる文化遺産をテーマに、遺跡（遺構）、伝承、歴史、伝統などをキーワードとして有形か無形か、活用中か否かなどに関わらず幅広く、『温故知新』のため、『水土文化遺産』の事例紹介やご意見を募集いたします。多数のご投稿お待ちしております。

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか

—平成17年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成17年も皆さまからの写真で表紙を飾ることを企画しました。つきましては、下記の要領で学会誌第73巻（平成17年1～12月号）の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受付けております。組写真では、3～4枚の写真を組み合わせて、ストーリー性を持たせた写真にしてください。

記

1. 趣 旨 近代に至るまで、わが国の農業土木技術者たちはその時々々の技術を結集し、稲作、ひいては国土を支えてきました。こうして築かれた「造形」の多くは周辺の風景と一体化しつつ、今もなお、その機能を十分に発揮しています。

学会誌編集委員会では、農業土木の先駆けとなったそうした農業水利遺産を見直すために、「先人たちの造形が織りなす風景」をテーマとし、学会誌の表紙を飾る写真を公募します。皆さん

の身近なところやふるさとで、先人たちの想いに心寄せながら、心に残る「一枚」を見つけ、ぜひお送りください。

なお、本来の機能を発揮している灌漑期だけでなく、静かにたたずむ非灌漑期の写真も、お待ちしております。

2. **写真の種類** 単写真、組写真いずれもカラープリントでサイズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。
3. **枚数** 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。
4. **締切** 平成 16 年 9 月 30 日 (必着)
5. **審査** 審査委員会(編集委員と写真家)で 12 点を選びます。
6. **結果発表** 学会誌 73 巻第 1 号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成 17 年度大会会場でパネル展示します。
7. **賞品** 入選作品 1 点につき 3 万円(表紙掲載料含む)。応募

者には記念品をお贈りします。

8. **応募資格** 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。
9. **その他** 応募写真の裏面にタイトル、住所、氏名、年齢、職業、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ)を記入して下さい。また、対象物の名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ、だれが、どうして等)もお寄せ下さい。
原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。
10. **宛先** 〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4 (社)農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各支部講演会担当者宛ご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投票規定に従って下さい。

1. 支部講演会投稿要領

- (1) 講演者は、本学会会員に限ります。学会に入会されていない講演者および共著者は、入会手続きを済ませた後に、投稿して下さい。
- (2) プログラム編成の作業上、投稿票と同じ項目の MS-DOS テキストファイルの入ったフロッピーディスクを提出していただきます。ファイル作成に関しては、下記の投稿票および投稿票ファイル作成要領に従って作成して下さい。なお、フロッピーディスクは返却しません。また、電子メールに添付いただくことも可能です(メールアドレスは各支部講演会担当者にお問合せ下さい)。
- (3) 投稿に当たっては次の書類などを同封し、郵送の場合は、事故防止のため必ず簡易書留封筒にてご送付下さい。原稿は折ったり、汚したり、しわにならないように十分注意して、A4 サイズの封筒(たとえば、角形 2 号)で送付して下さい。受領通知はがきには返送先を、また、裏面には講演題目と口頭発表者名を必ず明記して下さい。なお、はがきが同封されていない場合には受領確認通知は行いません。
 - ① 原稿
 - ② 原稿のコピー 1 部
 - ③ 投稿票(本号 101 ページ、コピーして使用可。また、次の URL から様式をダウンロードできます。http://www.jsidre.or.jp)
 - ④ 投稿票のコピー 1 部
 - ⑤ 投稿票ファイルのフロッピーディスク(1 課題 1 枚)
 - ⑥ 受領はがき(官製はがき)

2. 投稿票および投稿票ファイル

- (1) 必ず会員番号を記入して下さい。
- (2) 講演の概要は、目的・方法・結論についてわかりやすく必ず日本語で記入して下さい。
- (3) プログラムの編成に使用しますので、講演者氏名、所属機関、講演題目(副題も含めて)は必ず本文と一致させて下さい。なお、英文の場合は邦訳を加えて下さい。
- (4) 講演希望部門(第 1、第 2)キーワードを必ず記入して下さい。キーワードは本号 100 ページに掲載された例を参考にして講演内容にふさわしいものを文字で記入して下さい。
- (5) 投稿票ファイルには次の事項(番号、内容)を入力して下さい。英数字・記号は半角で入力し、罫線、半角カナは使用しないで下さい。各行の最後尾で改行して下さい。
 - ① 共著者および講演者(印)の会員番号・氏名・所属機関(□は半角空白)
例: 1 1 □ 930010 学会□太郎, ガッカイ□タロウ, 研究所□
例: 1 2 . 930020 学会□次郎, ガッカイ□ジロウ, 大学農学部□
 - ② 講演者の連絡先郵便番号(例: 2 . 105 0001 □)
 - ③ 講演者の住所(例: 3 . 港区新橋 5 34 4 □)

- ④ 講演者の電話番号 (例: 4. 03 3436 3418 □)
- ⑤ 講演題目(副題を含む) (例: 5. 副題 □)
- ⑥ 第1講演希望部門 (例: 6. 1 □)
- ⑦ 第2講演希望部門 (例: 7. 2 □)
- ⑧ キーワード1 (例: 8. 管水路流れ □)
- ⑨ キーワード2 (例: 9. 波 □)
- ⑩ キーワード3 (例: 10. □ □ □)
- ⑪ 写真・図の数 (例: 11. 1 □)
- ⑫ 表の数 (例: 12. 2 □)
- ⑬ 参考文献の数 (例: 13. 3 □)
- ⑭ 講演の概要 (例: 14.200字以内 □)
- ⑮ 掲載ページ (例: 15. □)(支部事務局で記入)
- ⑯ 発表使用機材 (例: 16. ビデオプロジェクター □)

3. 講演原稿の書き方

- (1) 原稿は必ず黒字で印字して下さい。
- (2) 原稿はオフセット印刷で縮写され、B5判の大きさになります。
- (3) 原稿用紙は、A4判(横210mm、縦297mm)の白紙とし、印刷の都合上、マージンは次のようにして下さい。
上: 25mm 下: 27mm 左: 23mm 右: 25mm
- (4) 書式
 - ① 文字
文字は、10.5ポイント以上として下さい。上下左右のマージンいっぱいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字して下さい。ワープロの機種によってこの組合わせができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。
 - ② 題目・所属・氏名・本文
原稿の題目は、1ページ目第1行に中央に寄せて書き、所属・講演者氏名(連名の場合には口頭発表者名の前に 印を付ける)は第3行目右側に寄せて書き、本文は第5行目から書き始めて下さい。2ページ目は第1行から書いて下さい。
 - ③ 図・表・写真
本文とともに原稿用紙に書き込み(あるいは貼り込み)、幅いっぱいにならない図・表は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして下さい。図・表は縮小されてもわかるように注意して下さい。
- (5) その他
すべての原稿(コピー含む)の裏面右上に鉛筆で、口頭発表者名およびページを記入して下さい。

4. 著作権

講演要旨集に掲載された要旨等の著作権(著作財産権、コピーライト)は、(社)農業土木学会に帰属します。また、記載された講演の概要および図、表、参考文献の数は、科学技術振興機構(JST)に提供されます。

5. 問合せ先 各支部事務局

講演希望部門とキーワード例

キーワード表			
1. 水 理	2. 水文・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流・地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質水文 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 個体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリ 地下水保全・地下水汚染 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境	11. 海外事情・情報処理・その他	
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農地景観	A. 環境保全 環境影響評価 水質 大気 土壌 地下環境 砂漠化 地球環境 B. 生態系 緑地 親水 ビオトープ	海外 現場報告 測量・GIS リモートセンシング プログラミング手法 通信・インターネット エネルギー 電磁波・光 複雑系 新素材・新手法 新手法 水産土木 農業土木教育	

受付月日	No .	会場番号	講演番号	掲載ページ

平成 16 年度 支部大会講演会投稿票

1. 講演者の氏名・所属機関 { 共同研究の場合は、口頭発表者に印をつけて下さい。
氏名の順序は原稿と一致させて下さい。 }

印	会 員 番 号	氏 ^(フリガナ) 名	所 属 機 関

講演者の連絡先 (住 所) 〒 _____ (TEL) _____

2. 講演題目 (題目および副題は、必ず本文原稿と一致させて下さい。英文の場合は邦訳を加えて下さい。)

(和文)

(英文)

3. 講演希望部門 (第1希望部門と、第2希望部門を数字で記入して下さい。)

第1希望	_____	第2希望	_____
------	-------	------	-------

1. 水理 2. 水文・気象 3. 土壌物理 4. 土質力学 5. 応用力学 6. 材料・施工
7. 灌漑排水 8. 農地造成・整備保全 9. 農村計画 10. 環境 11. 海外事情・情報処理・その他

4. 発表使用機材 (印)

OHP	スライド	ビデオプロジェクター	使用しない
-----	------	------------	-------

5. キーワード (上記3の講演希望部門に関連したキーワードを1個以上、文字で記入して下さい。)

1	_____	2	_____	3	_____
---	-------	---	-------	---	-------

6. 講演の概要と図表などの数
(必ず日本語で記入して下さい。)

写真・図の数	表 の 数	参考文献の数

(20字 x 10行)

第61回京都支部研究発表会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **研究発表会** 平成16年11月18日(木)
ピアザ淡海 県民交流センター
(滋賀県大津市におの浜一丁目1-20)
2. **情報交換会** 平成16年11月18日(木) 18:00~20:00
3. **現地研修会** 平成16年11月19日(金) 9:00~15:00
4. **研究発表申込**: 発表希望者は、投稿原稿に先立ち、表題(仮題でも可) 発表者名, 所属, 年齢(研究奨励賞対象者のみ), 連名者名, 所属, 年齢(研究奨励賞対象者のみ), 希望発表部門, 発表者の連絡先電話番号, 発表者のEメールアドレス(利用可能な場合)を記入した申込書を, EメールもしくはFAXでお送りください。
なお, 京都支部では, 大学, 短期大学, 研究機関に所属する発表時35歳以下の会員(学生会員も含む)によって口頭発表された優秀な研究に対し, 研究奨励賞を授賞しています。同賞の授賞基準に該当する方(35歳以下の連名者を含む)は, 必ず申込書に年齢を記入してください。
5. **投稿要領** 講演要旨に投稿票を添えてお送りください。投稿要領および原稿の書き方は, 本誌会告 pp.70~73を参照してください。
6. **発表申込および原稿投稿先**
〒606 8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院農学研究科 地域環境科学専攻 小林 晃
☎075 753 6152 Fax 075 753 6346
E-mail:kobadesu@kais.kyoto-u.ac.jp
7. **申込期限**
(1)発表申込 平成16年7月末日
(2)原稿締切 平成16年8月末日
(3)参加申込 平成16年9月末日
参加申込は, 第2報(次号掲載予定)を参照してください。
8. **問合わせ先**
滋賀県農政水産部農村整備課内 担当: 坪田, 福井
第61回農業土木学会京都支部研究発表会運営委員会事務局
☎077 528 3964(直通) Fax 077 528 4888
E-mail:s.225657@pref.shiga.jp

第59回中国四国支部講演会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **講演会** 平成16年10月13日(水)
会 場: 岡山衛生会館
〒703 8278 岡山県岡山市古京町1 1 10
☎086 272 3275 FAX 086 272 3256
2. **情報交換会** 平成16年10月13日(水)
会 場: ピュアリティまきび
〒700 0907 岡山県岡山市下石井2 6 41
☎086 232 0511 FAX 086 224 2995
3. **現地研修会**
日 時: 平成16年10月14日(木)
コ - ス: 岡山駅付近駐車場 児島湾干拓資料室 児島湾周辺農業用施設 藤田揚排水機場 高梁川合同堰 備中国分寺 岡山駅前解散
行き先については変更する場合があります。
4. **問合わせ先**(講演会参加窓口と原稿提出窓口を別にしていますのでご注意ください)
講演会発表原稿提出窓口:
農業土木学会中国四国支部事務局 深田 三夫
〒753 8515 山口市大字吉田 1677 1
山口大学農学部 生物資源環境科学科
TEL/FAX 083 933 5830
MAIL mfukada@yamaguchi-u.ac.jp
講演会参加申込窓口:
岡山県農林水産部耕地課水利・ほ場整備班 柏原・谷本
〒700 8570 岡山県岡山市内山下2丁目4番6号
☎086 226 7434(直通) 086 224 2111(代表)
FAX 086 222 9621
5. **詳細** 本誌7月号に掲載予定です。

第33回中国四国支部研修会・第28回地方講習会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **テーマ** 支部研修会 未定・地方講習会 未定
2. **日 時** 支部研修会 平成16年10月26日(火)
地方講習会 平成16年10月27日(水)
3. **会 場** 支部研修会・地方講習会
〒780 0870 高知県高知市本町4丁目3 30
高知県立県民文化ホール「グリーンホール」
4. **問合わせ先**
高知県農林水産部耕地課
とよなが りょうじ あおき なつゆ
豊永 竜二, 青木 夏夕
☎088 821 4564 FAX 088 821 4567
5. **詳細** 本誌7月号に掲載予定です。

平成 16 年度農村計画研究部会研修会（第 26 回現地研修集会）の開催について
農村計画研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



主 催 農業土木学会農村計画研究部会

山野村夢づくりの会 下梶 勝彦 氏

後 援 岐阜県，水土里ネットぎふ（岐阜県土地改良事業団体連
合会）

滝町棚田保存会 中屋 栄一郎 氏

16：45～17：00 閉会挨拶

協 賛 農村計画学会

(2) 飛騨高山現地検討会

【第 26 回現地研修集会テーマ】

平成 16 年 8 月 27 日（金）8：30～15：00

みんなで描く山里ものがたり

8：15～8：30 受付（高山駅前）

～古きをたずね，人と地域資源でつむぐ～

8：30～高山駅前出発，清見村（パスカル清見），高山市

【日程】平成 16 年 8 月 26 日（木）研修集会

（飛騨の里）ほか～15：00 解散（高山駅前）

8 月 27 日（金）飛騨高山現地検討会

【参加費用】

【会場】飛騨・世界生活文化センター芸術堂

研修集会参加費 5,500 円

（岐阜県高山市千島町 900 1 ☎0577 37 6111）

現地検討会参加費 5,000 円（昼食代 1,000 円含む）

【プログラム】

【参加申込】

(1) 研修集会および講演会

参加をご希望の方は，参加申込書（部会 HP からダウンロードして下さい）に所要事項をのり記入の上，FAX，Eメールまたは郵送にてお申込みください。間違い防止のため電話での受付はいたしませんのでご了承ください。

平成 16 年 8 月 26 日（木）9：30～17：00

申込多数の場合は，定員 400 名に達し次第締切らせていただきますので，あらかじめご了承ください。

9：00～9：30 受付

(1) 申込期限 平成 16 年 7 月 16 日（金）

9：30～9：45 開会挨拶

(2) 申込先 JTB イベント&コンベンションサービス

9：45～11：15

講演「人と地域の宝を活かした最後の生き残りの道」

～岐阜県清見村の事例～

清見村助役 松葉 晴彦 氏

担当：松原・辻井

11：15～12：00

講演「地域資源に女性パワーを活かして」

～明宝レディースによる地域特産品づくり～

明宝レディース社長 本川 栄子 氏

〒500 8727 岐阜市神田町 2 岐阜商工会議所 2F

FAX 058 264 1275（24 時間受付）

Eメール jtbecgif@cjn.or.jp

12：00～13：00 休憩

FAX の場合は，申込書のみを送信いただきますようお願いいたします。送信書・FAX カバーは不要です。

13：00～13：30

事例報告「山里の知恵を伝える～荒城農業小学校～」

国府町新産業振興課長 牛丸 博和 氏

Eメールの場合は，部会ホームページ（http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/2004_gifu.htm）より専用申込書フォームをダウンロードしていただき，ご入力後添付してお送りください。

13：30～14：00

事例報告「古きをつなぎ，若者の居着く山里づくり」

山野村夢づくりの会代表 下梶 勝彦 氏

郵送の場合は，控えとして必ずコピーをお取りください。お電話での申込書の到着確認はご遠慮願います。

14：00～14：30 事例報告「山里の語り部」

滝町棚田保存会代表 中屋 栄一郎 氏

申込書の到着後 2～3 日中に受付印を押印し（Eメールは受付メッセージをつけて）返信いたします。返信がない場合は申込書が届いていない可能性がございますので，お電話でお問い合わせください。

14：30～14：50 情勢報告 農林水産省農村振興局農村整備課

14：50～15：05 休憩

15：05～16：45 オープンディスカッション（100 分）

コーディネーター 岐阜大学教授 松本 康夫 氏

パネリスト 清見村助役 松葉 晴彦 氏

明宝レディース 本川 栄子 氏

国府町新産業振興課 牛丸 博和 氏

(3) 参加費の納入

申込書ごとの予約回答・請求・清算となります。個人（1 名様 1 部）の請求書・宿泊券・各種参加券を申込書ごとにとりまとめてご担当者様宛て送付いたします。請求先が別の場合は必ず申込用紙を分けてご記入ください。請求書・宿泊券・各種参加券

は7月下旬頃の送付を予定しております。届きましたら振込手数料をご負担いただき請求書の指定口座にお振込ください。

- (4) その他詳細については、本内容を含む最新情報を部会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/2004.gifu.htm>) で提供しています。

- (5) お申込に関する問い合わせ先 担当：松原・辻井
JTB イベント&コンベンションサービス
〒500 8727 岐阜市神田町2-2 岐阜商工会議所2F
☎058 264 1286 FAX 058 264 1275

E-mail jtbecgif@cjn.or.jp

電話のみ平日9:30~18:00 受付

【現地研修集会に関する問い合わせ先】

農村計画研究会研修会現地運営事務局

〒500 8570 岐阜市藪田南2-1-1

岐阜県基盤整備部農地計画課調査計画担当

担当：後藤，板垣

☎058 272 1111 (内線 3176) FAX 058 271 6607

E-mail itagaki-shinji@pref.gifu.lg.jp

平成16年度 農業土木学会資源循環研究部会研究発表会の開催と発表申込みのご案内

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農村における水やバイオマス等有機資源の利活用および循環に係る技術の発展およびこれら技術に関心を有する者の学術交流に寄与することを目的として、平成15年4月に、農業土木学会資源循環研究部会が発足し、1年が経過しました。

昨年度、第1回の研究発表会を企画したところ、発表者、聴講者とも多数の参加をいただきました(聴講者数221名)。本年度もより多くの関心ある方に参加いただけるよう、事務局である社団法人日本農業集落排水協会の協力を得て、「EFAFF 2004(第5回農林水産環境展)」の開催に併せて、日本コンベンションセンター国際会議場(幕張メッセ)で開催することを企画しています。

つきましては、農業土木学会資源循環研究部会員の皆様方から広く発表者を募りますので、積極的なご応募・ご参加をお待ちしています。また、部会員登録は随時受け付けていますので、現在部会員ではない方も、部会員登録を行った上で応募することが可能です(年会費不要、農業土木学会員以外も登録可能)。

なお、発表会の聴講申込みにつきましては、詳細が明らかになり次第、追って学会誌、学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)、日本農業集落排水協会ホームページ(<http://www.jarus.or.jp>)等でお知らせします。

1. **開催日** 平成16年11月24日(水)~26日(金)のうち一日 10:00~16:00
2. **会場** 日本コンベンションセンター国際会議場(幕張メッセ) 国際会議室
3. **内容** 農村における水やバイオマス等有機資源の利活用及び循環に係る調査・研究の成果
4. **発表要領及び申込み方法**

(1) 発表要領

- ア 発表者の資格：農業土木学会資源循環研究部会員とします。(申込みと併せての入会も可です)
- イ 発表の内容：農村における水やバイオマス等有機資源の利活用及び循環に係る調査・研究の成果(バイオマス利活用、農業集落排水技術全般、水資源再利用、汚泥減量再資源技術等)

ウ 発表方法：個人発表とし、1人(共同研究の場合は口頭発表者)1課題とします。発表を補助する映像機器として、パソコン画像、OHP原稿及び書類を投影できるマルチプロジェクターを用意します。

エ 発表時間：20分程度/人(発表17分、質疑応答3分程度)の予定です。

オ 発表要旨集：聴講者に発表内容を十分理解していただくため、発表要旨集を作成し配布します。

カ 審査：査読委員会において、発表要旨概要(別添申込用紙に記入したもの)を対象に査読・審査し、内容的に了承が得られた課題を採択する手順を採ります。

審査を経て発表することとなった課題については、上記オの発表要旨集に掲載する原稿を作成していただきますが、これについても同委員会において査読を行い、場合によっては、加筆修正をお願いすることがありますので、その旨ご了承ください。なお、査読基準に関しましては追ってメール等にてご連絡いたします。

キ 備考：昨年度の発表におきまして、焦点が絞り込まれておらず、発表時間が不足気味に終わった課題や、宣伝色の強い課題があったとの指摘がありました。申込みやその後の資料作成につきましては、こうした点も留意いただき、学会活動に相応しい内容となるようお願い致します。

(2) 申込み方法等

申込み用紙の提出をもって申込みとみなします(申込用紙は学会ホームページ参照)。

申込みは、原則として電子メールにて受け付けます。受理次第、当方から確認のメールを送信させていただきます。

締切は平成16年6月25日(金)必着とします。

応募多数の場合、上記1(カ)で紹介した査読委員会において審査された結果に基づき、発表課題を絞込ませていただくこととなります。発表課題の選定は、応募締切後速やかに

実施し、事務局から応募者に結果をお知らせいたします。

発表が決定した応募者には、発表要旨集に掲載する原稿の作成をお願いいたします。追って事務局から詳細を連絡しますが、枚数は、図・表・写真等を含め、1課題につき最低A4版6頁程度とする予定です。

(3) 申込み・問い合わせ先

農業土木学会 資源循環研究部会

事務局：社団法人日本農業集落排水協会技術研究部水循環班
(担当：大和 章〔おおわあきら〕)

〒105 0012 東京都港区芝大門一丁目1番3号

日本赤十字社ビル

☎03 3432 6283, FAX 03 3432 0743,

E-mail: sigen@jarus.or.jp

**「材料施工研究部会報第42号」,「性能設計に関する勉強会報告会および研究発表会講演集」
の販売について
材料施工研究部会**

平成16年2月27日に開催されました第41回材料施工研究部会シンポジウム2月28日に開催されました性能設計に関する勉強会報告会および研究発表会において、当日お配りした資料に残部がありますので、実費にて頒布いたします。両者とも現在ある部数のみ販売となりますので、先着順の販売とさせていただきます。多数のご依頼をお待ちいたしております。

【購入方法】

1. 申込 氏名, 所属機関名, 住所, TEL, FAX, E mail, 購入冊子名, 購入部数, を明記の上, FAXもしくはE mailでお申込下さい。
2. 金額 「材料施工研究部会報第42号」, 「性能設計に関する勉強会報告会および研究発表会講演集」の両者とも購入代金は1冊1,000円です。
3. 連絡先 〒680 8553 鳥取市湖山町南4 101
鳥取大学農学部 緒方英彦(材料施工研究部会事務局)
TEL&FAX : 0857 31 5397
E-mail: ogata@muses.tottori-u.ac.jp
4. 代金振込先 山陰合同銀行湖山支店
口座番号: 普通 3605493
名義人: 農業土木学会材料施工研究部会長
服部九二雄
5. その他 冊子は着払いで送付させていただきます。

【材料施工研究部会報第42号】

平成16年2月27日に開催されました第41回材料施工研究部会シンポジウムの講演集です。

1. 水理・水学的性能から考える性能(照査型)設計の課題
用水路系のシステム設計を中心に : 中 達雄((独)農業工学研究所 水工部)
2. 性能照査型設計の視点からみた愛知用水の水路システム
性能照査型設計の考え方に関連して : 羽田野義勝((独)水資源機構 愛知用水事業部)
3. 水利構造物の性能照査と信頼性設計: 鈴木 誠(清水建設(株))

技術研究所)

4. 構造物の耐震性能に配慮した耐震設計の考え方: 立石卓彦(日本技研(株)品質保証部)
5. 性能照査の観点からみた農業水利施設のストックマネジメントと機能診断: 森 充広・長束 勇・渡嘉敷 勝・石村英明・石神暁郎((独)農業工学研究所 造構部)
6. 施設の景観という性能をどう捉えるか: 工藤庸介・木全卓・桑原孝雄(大阪府立大学大学院農学生命科学研究科)
7. 生態系の保全に配慮するための性能設計: 鹿嶋弘律((社)農村環境整備センター)

【性能設計に関する勉強会報告会および研究発表会講演集】

平成16年2月28日に開催されました性能設計に関する勉強会報告会および研究発表会の講演集です。

(第一部)

- I 1 農業農村整備事業への性能設計の導入: 進藤忍治(農林水産省農村振興局建設課)
- I 2 農業水利コンクリート構造物の耐久設計: 緒方英彦・服部九二雄(鳥取大学農学部), 野中資博・石井将幸・佐藤周之(島根大学生物資源科学部)
- I 3 農業水利施設を造る建設材料の性能設計: 佐藤周之・野中資博(島根大学生物資源科学部), 服部九二雄・緒方英彦(鳥取大学農学部), 高田龍一(松江工業高等専門学校)
- I 4 農業用開水路に対する構造性能照査手法と安全係数に関する検討: 石井将幸・野中資博(島根大学生物資源科学部)
- I 5 非線形FEM解析によるコンクリート構造物の性能照査について: 石黒 覚(三重大学生物資源学部)
- I 6 ゴムの反発力を利用したコンクリート水路の補修用目地工法の開発: 小俣富士夫・岡上 宏・滝澤雄三(ショーボンド建設), 澤村光治郎(農林水産省近畿農政局)
- I 7 劣化・老朽化した構造物の性能照査及び補強設計に関する一考察: 中津井邦喜・中野雅章・師 自海(日本工営)
- I 8 非破壊検査の適用による敷設後30年経過したPC管路の定量的損傷度評価: 鈴木哲也(日本水工コンサルタント), 大津

- 政康 (熊本大学大学院自然科学研究科)
(第二部)
- II 1 耐震性能照査型設計の基本的な考え方と課題: 立石卓彦 (日本技研)
- II 2 LCCの検討に確率論的手法を用いることの可能性について: 小林 晃 (京都大学大学院農学研究科)
- II 3 コスト最小理論に基づく液化化確率低減のための地盤改良最適設計: 西村伸一 (岡山大学大学院自然科学研究科), 清水英良 (岐阜大学農学部)
- II 4 裏込めに用いる可塑状グラウト材の性能: 久 修・道脇健一 (ショーボンド建設)
- II 5 ジオグريدで補強したセメント複合材のたわみ挙動について: 座狩屋保世院・井上宗治 (三重大学生物資源学部)
- II 6 地盤の浸透破壊に対する安定解析法: 田中 勉・井上一哉 (神戸大学農学部)
- II 7 盛土堤体の品質照査に向けた簡便で精度のよい現場透水試験法の提案: 森井俊広 (新潟大学農学部)・竹下祐二 (岡山大学環境理工学部), 森 敬幸 (飛鳥建設), 松本 智 (新潟県土木部)
- II 8 土構造物の性能設計としての観測施工法: 鈴木 誠 (清水建設)・村上 章 (岡山大学大学院自然科学研究科)
(パネルディスカッション)
- 1 水利学的側面からの水路システムの信頼性設計の考え方: 中 達雄 (農業工学研究所水工部)
 - 2 鉄道における土構造物の性能規定化の動向: 舘山 勝 (鉄道総合研究所構造物技術研究部)
 - 3 コンクリート構造物の性能規定型耐震設計法: 村山八洲雄 (岡山大学環境理工学部)

**第19回 ICID 総会における “Special Session” “Symposium” “Seminar” および
“Congress Questions” への発表論文募集について**
ICID 日本国内委員会

2005年9月, 中華人民共和国・北京において, 第19回 ICID 国際かんがい排水委員会・本部ニューデリー 総会が開催されます。この総会は3年に1回開催される技術会議であり, 全体テーマは「食料および環境持続性のための水および土地利用」(Use of Water and Land for Food and Environmental Sustainability)です。

ICID 日本国内委員会は, 下記の要項に従い論文募集を行いますので, 御希望の方は要旨を作成の上, ご応募下さい。応募いただきました要旨については, ICID 日本国内委員会及び ICID 論文選考委員会で選考を行い, 当会議で発表することが適当と判断したものに付きましては, 日本からの発表論文として提出する予定としています。なお, 選考結果につきましては, 採用本人への通知をもって代えさせていただきます。

記

I. 会議開催概要

開催期間: 2005年9月11日~19日

開催場所: 中華人民共和国・北京

II. スペシャルセッション, シンポジウム, セミナーでの発表論文募集

1. スペシャルセッション: Legal and Institutional Challenges

【テーマ】

Institutional and legal issues in groundwater utilization ;
Institutional and legal frameworks for intensive job creation in water resources management projects ;
Mechanisms for equity in water distribution and conflict resolution ;

Institutional reforms in the irrigation sector ;
Water rights, water pricing and water markets ;
Institutional and legal aspects for management transfer and participatory irrigation and drainage management ;
Comprehensive water policies and institutional arrangement for reform implementation ;
Comprehensive water codes for sector legislation : Irrigation acts, drainage acts, etc. ;
Legal steps to ensure environmental sustainability of irrigation and drainage ;
Legal aspects of conflict resolution in construction of irrigation and drainage facilities including dams.

2. シンポジウム: Water Quality/Salinity Management

【テーマ】

Water saving and salinity control in arid and semiarid regions ;
Controlling waterlogging and salinity through improved water management and adequate drainage ;
Water quality management in irrigated agriculture: combination of water management and agricultural practices to reduce leaching ;
Managing the disposal of drainage water to avoid pollution of receiving water bodies and damage of wetlands caused by salts and toxic agricultural chemicals ;
Establishing appropriate guidelines, rules and standards for managing the use/reuse of low quality water in ir-

rigation ;

Surface and ground water quality monitoring, assessment and modeling;

Method for managing leaching of salt accumulated in soil ;

Estimation of future degradation of soil and groundwater by accumulation of salt ;

Disposal/treatment of heavily contaminated water .

3. セミナー : Management of historical/traditional irrigation projects

4. 要旨作成要領等

内 容 : 前述のテーマに沿った内容であること

言 語 : 英語またはフランス語

文 字 数 : 500 ~ 600 ワード

タイトル : 70 字以内が望ましい

締 切 : 2004 年 7 月 9 日

留意事項 : 日本から論文を提出することができるのは、スペシャルセッションにおいては各テーマにつき 1 人、シンポジウムおよびセミナーはそれぞれ 1 人となっております。

5. 論文 (Full Paper) 作成要領等

応募いただいた要旨について、発表することが適当と判断したものに付きましては、採用本人に通知いたしますので、論文 (Full Paper) をご用意下さい。

全文の字数 : 4000 ワード以内

締 切 : 2005 年 2 月 15 日

そ の 他 : 論文には問題解決方法、結果を導いたデータ、分析、結論を含む 250 ワードの abstract および 500 ~ 600 ワードの Summary and Conclusion を記述すること。

III . Congress Questions での発表論文募集

1. テーマ 52 : Improving Water and Land Management for Increasing Efficiency in Irrigated Agriculture

【サブテーマ】

On-farm water and soil management

Performance evaluation and integrated management of irrigation and drainage systems

Conjunctive use of water to optimize food production

Policy options for water saving in irrigation

Management transfer and participatory irrigation and

drainage management

Application of information technology in irrigation and drainage management

2. テーマ 53 : Harmonious Coexistence with Flood Water

【サブテーマ】

Land use planning and its impact on flood and drought regime

Integrated planning and management of flood diversion , storage, retention and discharge areas

Adjusting urban and rural development to reduce flood risks

Mechanisms for protection , relief and rehabilitation

Information technical systems and professional contingent for flood fighting

Case studies

3. 要旨作成要領等

内 容 : 前述のテーマに沿った内容であること

言 語 : 英語またはフランス語

文 字 数 : 500 ~ 600 ワード

タイトル : 70 字以内が望ましい

締 切 : 2004 年 7 月 31 日

4. 論文 (Full Paper) 作成要領等

応募いただいた要旨について、発表することが適当と判断したものに付きましては、採用本人に通知いたしますので、論文 (Full Paper) をご用意下さい。

全文の字数 : ケーススタディー ; 2000 ワード以内
論 文 ; 4000 ワード以内

締 切 : 2005 年 2 月 15 日

そ の 他 : 論文には問題解決方法、結果を導いたデータ、分析、結論を含む 250 ワードの abstract および 500 ~ 600 ワードの Summary and Conclusion を記述すること。

IV . 要旨・論文送付先および問合せ先

〒151 0001 港区虎ノ門 1 - 21 - 17 虎ノ門 NN ビル
(財) 日本農業土木総合研究所

☎03 3502 1389 FAX 03 3502 1329

担当 : 野本雅昭 masaaki-nomoto@jiid.or.jp

八百川朋世 tomoyo-yaokawa@jiid.or.jp